



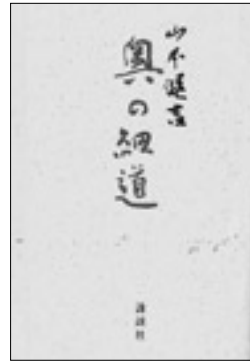
や

No. 35

2007.11.10

平成19年11月10日 筑後市野町428-8
〒833-0032・TEL 0942・53・8122

これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。



○奥の細道
山本健吉著 講談社刊

文芸評論家としての山本健吉に、私が親しみを覚えたのは、「私小説作家論」が最初である。牧野信一、梶井基次郎についての論評は若い頃、再三再読に及んだ。牧野の浪漫調に魅かれ

たのも、また梶井の新鮮な瞞目描写のすばらしさも、山本健吉の解釈に教示されたような気がする。

『奥の細道』についての解題注釈は、松尾芭蕉の俳人としての精髓を基調に述べられているが、学問的でなく、文学的に語られているところに親しみを覚える。「軽み」についての論述に、氏は客観句に対しての主観句、心のありかを「義経記」に重ねて注釈されている部分に一つの特色を読みとる。この一冊は氏の没後、平成元年の発刊で、あとがきは、静枝夫人が「主人に代りて」と付記されている。山本健吉氏は1988年5月没。81歳。

母さん
男六人を生んで
国から喜ばれたけど
国は何もしてくれなかった
父さんは狂い
兄さんはニコヨンとなり
次々と
出稼ぎに
東京へいった

母さん
ぼくたちの時代は
映画が最高の娯楽だった
ニュースはその時の情報源
食べものも
心も貧しかったけど
良くなるさざしと喜んでいた

母さん
大きくなって
それらをわたしは黒く塗りつぶした
「七人の侍」から
「天国と地獄」の間を
「わるいやつらはよく眠る」

母さん
わたしたちの楽しみは
破れた天井の
ポスターがメルヘンだった
兄さんたちの映画へのノスタルジー
「駅馬車」があり
「第三の男」があり
「禁じられた遊び」があり
「道」があった

○まきもどされたフィルム(一)

麻田春太著



受贈図書紹介 23

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。
あしからずご了承下さい。

老兵エッセーに突撃 …… 中村 敦 横浜市
勝機なきビルマ戦 …… 武末達三郎 福岡市
熊本土族隊 …… 甲斐 弦 熊本市
蒼き座標 …… 野中 暁 小城市
明日の森 …… 中山 陽右 佐賀市
一路 …… 志岐 信次 大川市
呪幻 …… 綾部 榎城 福岡市

学校ここがおかしい …… 観世 広 太宰府市
孕寿 …… 丹下 藹基 今治市
館長漫調 …… 貞森比呂志 佐賀市
四階の小さな踊り場 …… 山田 敦心 福岡市
詩集 靴 …… 奥田 和子 芦屋市
今村清子遺稿集 …… 今村 家 東京都
句集 初空 …… 荒金 久平 小郡市
句集 源流 …… 中谷とくえ 奈良県
句集 千里を翔けて …… 中村 姫路 東京都
おかげさまで …… 井上富二・美保子 久留米市



○シベリヤ・ヤポンスキーサルダート

井戸邊 正則

著者は大正13年、田川郡方城町の生まれ。21歳で出征。満州のチチハルにて終戦を迎えられるが抑留、収容所生活。その体験がここには語られている。

マイナス40度の酷寒。トイレは屋外。収容所長のニコライは短気で、すぐに拳銃をふり回して空に向け発砲する。みんなで「チンドン屋」とアダ名を付けたという愉快な話もまじえられているが、凍土のうえでの整地作業は容易ではない。ロシア女性の日本兵への関心なども率直に語られていて、特異な抑留体験記といった特色がある。

著者は現在愛知県に在住。

歌集 パン皿

宮田久子

湯上りの手にクリームを滲ませつ
母想いおり荒れし母の手

張りのある日々を生ぎんと思うとき
風の中にてゆるがぬ裸木

病むあねを見舞う旅なれど久々に
夫と車中にひらく駅弁

コスモスを家のめぐりに咲かす夢
もちて久しく日の射さぬ庭

俳優と同じ名前も話題となり

この家の当主西田敏行

宮田久子さんは大正14年生まれ北九州戸畑の在

歌集 野紺菊

河口美沙子

ぬくみ持つ歌碑に手を当て白秋の
雉子車の歌木もれ日に読む

阿蘇めぐる旅は終れりわが街の
明かり見えそむ上内峠

友のこと先生のことテストのこと
厨に姪のおしゃべりつづく

訪れし友は落葉の積む露路に
秋がつもつてゐると喜ぶ

阿蘇谷の山ふところの集落に
低くかぶさり冬の虹立つ

(大牟田市三池在)

歌集 ニューギニア戦歌集

内貴直次

二十四を我が一期にと正弾の
飛び交ふ中に進み入りにき

密林に湿る岩面に滑る靴
担架の兵は幾度つまづく

風前の灯に似て傷兵は自決の力
さへなき身となれり

夜明ければ道歩かれず大挙して
グラマン襲ふ銃弾の軌跡

内貴さんは、大正10年9月、京都府生まれ、85歳
ニューギニア戦場で砲弾により片脚切断の重傷な
がら生還。小野田寛郎氏が序文を寄せていられる
が、内貴さんを気迫の人と推賞。

編集掌記

▼10月の新聞記事で、郷土の話題二件に注目させられた。一つは、七世紀の昔、唐の日本侵攻

計画を知らせるために、身は奴隷となり仲間を

帰国させた上陽町出身

の相伴部博麻のものが

たりを紙芝居に描かれた

たという八女市文化財

専門委員木下義弘さん

の話。木下さんは現代

社会から失なわれつつ

ある大切なものを子ども

たちが感じとつてく

れたらという願いからの

発想。

▼この新聞の一面には、

国を守るべき中枢の人

物が夫婦つれだつてゴ

ルフ遊びにふけてい

たとのニュース。防衛

省のお偉方に見てもら

いたい紙芝居のような

気がする。

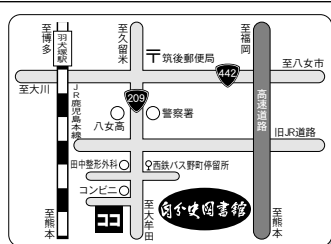
▼二つ目は、文芸評論

家山本健吉の遺品寄贈

を受けながら十数年も

自分史図書館

入館無料
開館 午前9時～午後5時
閲覧希望の方は予め電話で
ご確認下さい。
貸し出しはしていません。



〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



いたという八女市の件。
予算化できなかったと
教育長の弁明が掲載さ
れていたが、山本健吉
氏の実績に対する認識
不足ではないか。小郡
市は野田宇太郎文学記
念館が立派に設立され
ている。
(自分史図書館長 椎宏盛)